

神々の気配にふれる歴史ある陣屋町の魅力

—御所市の観光の今と未来—

日本観光研究学会関西支部は、毎年度、地方自治体と連携し、地域の観光について語り合う地区懇話会を開催しています。2024度は、2024年12月7日に、大阪成蹊大学で日本観光研究学会全国大会が開催されることから、「大阪・関西万博を観光から考える」をテーマとしたシンポジウムと兼ねて実施しました。2025年度は、奈良県御所市と共に開催することになりました。御所市は、大和平野の西南部に位置し、金剛山・葛城山が峰を連ねる山麓の丘陵地から平野の広がる緑豊かなところです。江戸時代に陣屋町として栄えた「御所まち」には、今も当時の面影のまま、町家が軒を連ねる町並みが広く残されています。また一方で、町家を利活用した新たな取り組みも見ることができます。

御所市の「観光」のこれからについて語り合いたいと思いますので、奮ってご参加ください。

●とき:2025年11月29日(土)

●ところ:(第2部シンポジウム)

会場:アザレアホール

(奈良県御所市13番地)

近鉄御所駅から徒歩15分

JR御所駅から徒歩10分

申込み切
11月22日

●第1部:市内見学(エクスカーション)

9:30~12:00

○集合:9:30に近鉄御所駅改札前

○募集定員:20名 江戸時代の歴史的な雰囲気を感じるごせまちを
徒歩で見学します(解説付きです)

○参加費:無料

○昼食:鴨都波神社にて、「ごせ町料理 koe」さんのお弁当(自費)



●第2部(シンポジウム)

14:00~16:30(開場:13:30より)

○参加費:無料。

○基調講演:御所市長 山田 秀士氏

○パネルディスカッション

<パネリスト>

大久保 泰輔氏(株式会社 narrative)

中井 将一郎氏(読売新聞 大阪本社)

山中 淳史氏(奈良県観光局長)

中井戸 隆氏(御所市 企画政策部 観光振興課長)

<コーディネーター> 松田 充史

(日本観光研究学会関西支部長、大阪成蹊大学教授)

写真提供:御所市

主催:日本観光研究学会関西支部 後援:御所市

お申込み方法は裏面を参照

第1部：市内見学(エクスカーション)

○時間:09:30~12:00

○集合:09:30 近鉄御所駅前

※大阪方面からの場合、近鉄御所駅 09:21 着の電車があります。

○募集定員:20名

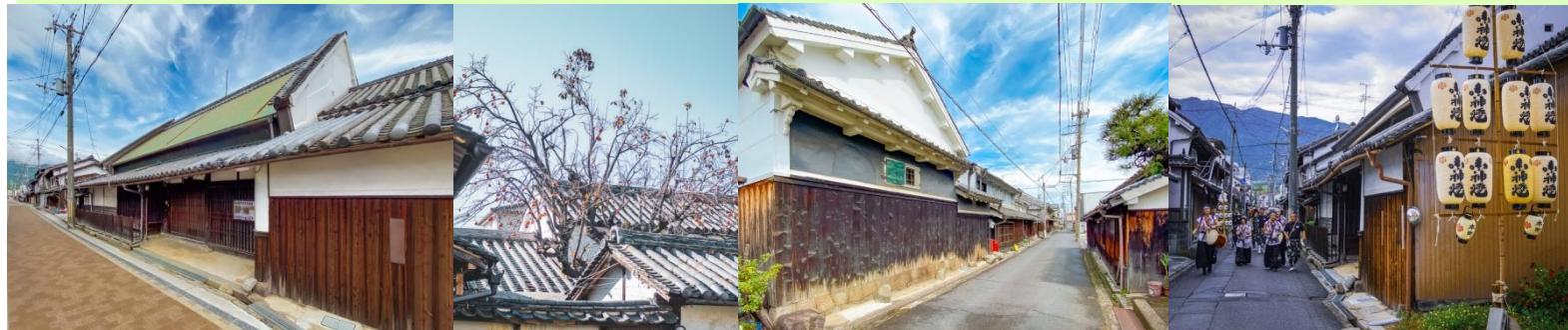
○参加費:無料

○コース:御所まちを中心にエクスカーション

11:30 から鴨都波神社にて、宮司様から「鴨族に関するお話」をしていただく予定です。

○昼食:12:00頃~13:00頃 鴨都波神社にて、「ごせ町料理koe」さんのお弁当をいただきます。

(御所の食材を活かしたお弁当をお楽しみください) ※昼食代は各自負担となります(1,000~2,000円程度)



～ 御所まちの魅力 ～

御所駅の東に広がる「御所まち」エリアは、江戸の風情が残る陣屋町です。関ヶ原の戦いの後、御所一万石の大名に取り立てられた桑山家により整備され、奈良中南部の中心地として発展しました。南北に流れる葛城川を挟んで「西御所」「東御所」という2つのエリアに分かれており、西御所は大和絹や菜種油づくりを営む家が並んだ商家の町として発展。対する東御所は、天文15年(1546年)に開山された「大和五ヶ所御坊」のひとつである「円照寺」を中心に、寺内町として栄えてきました。250年以上前の検地絵図と見比べても、町割りや背割り下水などがほとんど変わらないほど当時の姿をよく残しており、国の登録有形文化財である「赤塚家住宅」を筆頭に、江戸から昭和初期に建てられた約300棟もの町家が今も人々の生活の場として残っています。江戸、明治、大正、昭和、平成と積み上げられてきた長い歴史に加え、令和になってからの「GOSE SENTO HOTEL」のプロジェクトや町家カフェのオープンなど、新しい風も吹き込む今の御所まちの風景は、多くの異質がグラデーションのように混ざり合い、それが不思議とバランスした独特の魅力を醸しています。そんな、ここにしかない趣ある町並みを歩いてみてはいかがでしょうか。



写真提供:御所市

【お申し込み方法】・以下の学会ホームページ(観光力ホームページ)のお知らせを読み、指定のグループフォームからお申込みください。(先着順となります)

申し込み先:<http://www.kankoryoku.jp/>

・〆切:2025年11月22日(土)

・問い合わせ先:日本観光研究学会関西支部事務局 gakkai@kankoryoku.jp